



清涼 せいりょう

第15号

浄土真宗 本願寺派

清涼山 善教寺

〒663-8184 西宮市鳴尾町 4-10-7

0798(48)2224

www.zenkyoji.jp

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

与えられた

「いのち」

「人生に余生はない 与生である」

以前、あるお寺の掲示板に紹介されていた言葉です。私たちが普段、「よせい」と書く時や話す時、「余生」という漢字を思い浮かべることが多いのではないのでしょうか。しかし「余生」は、「余った人生」と表現されているように、少し違和感を覚える言葉のように感じます。私たちの人生やいのちに、余った人生やいのちはないからです。たとえば仕事をリタイアすれば、子育てを卒業すれば、歳を重ねていけば、私たちの人生は「余生」に入っていくのでしょうか。そうではないように思います。たとえ仕事をしていようと、していなくても、子育てをしていようと、していなくても、歳を重ねていようと、重ねていなくても、私たちは与えられた「いのち」を今、生きているのではないのでしょうか。

かけがえのない、たった一度きりの「与生」を生かされている、それが私の人生に他なりません。日々、言葉を使って生きている私たちだからこそ、どのような言葉を使うかによって、人生の景色も変わってくるように思うのです。「与生（与えられた「いのち」）」という言葉が大切に、この人生を歩んでいきたいと思っています。

「私のものさしで問うのではなく 私のものさしを問う」

この言葉もあるお寺の掲示板を見て、ハッとさせられた言葉です。私たちは無意識に、いつも自分のモノサシである価値観や都合で周りのすべてのものを問い、計りながら生きています。好き・嫌い、損・得、良い・悪い、生・死と、何の疑問も持たずに自分のモノサシで勝手に良し悪しをつけ、評価して生きています。しかし私の持っているモノサシがそもそも間違ったものであれば、計っていくもの全てを誤って捉えていくことにつながっていきます。

ご家庭で回覧し、として保存くだされば幸いです。

だからこそ、私の持っているモノサシを確認し、チェックしておくこと。自身の価値観や都合を、問うていくことの大切さを仏教は伝えてきました。仏さまの心（智慧・慈悲）という、私の持っているモノサシをはるかに超えた、大きくて深いものと出会うことによって、私のありのままの姿をはつきりと確認することができずし、そこに仰ぐべき真実とは何か知らされてくるように思うのです。

自分の価値観や考えだけが確かなわけではなく、自分のモノサシだけが正確なわけでもありません。自分の持っているモノサシを超えた、仏さまの心（智慧・慈悲）を聞かせていただき、自身の姿を省みながらこの人生を歩んでいきたいと思えます。



副住職 赤井 智顕



令和5年 8月5日(土)・6日(日)

お盆法要(歓喜会)

浄土真宗のお盆は、お浄土へ往生された大切な方々を偲びながら、仏法(仏さまの教え)を聞かせていただく大切な法要です。新型コロナウイルス感染症の影響で、長らくお寺でのお盆法要は中断していましたが、今年には久しぶりにご門徒の皆さんにお参りいただき、お勤めすることができました。法話は副住職が担当し、浄土真宗におけるお盆の意義や、懐かしい方々がおられるお浄土についてのお話をさせていただきました。

暑い中、2日間・計5座(回)の法要に、多くの方々のお参りをいただきました。ありがとうございました。



秋季彼岸会

令和5年 9月18日(月・祝)

彼岸(「彼の岸」とは、迷いの世界(「此の岸」)に対するさとりの世界。浄土真宗の教えに縁ある私たちにとって、阿弥陀さまのお浄土といただく言葉です。お念仏の先人方はこのお彼岸のご縁を通して、お浄土へ先立つて往かれた方々を偲んできました。

4年ぶりとなる秋季彼岸会でしたが、当日は善教寺のお参りをサポートしていただいている、籠了悟師、天崎仁紹師と副住職がリレーで法話をさせていただきました。



籠了悟師



天崎仁紹師

令和5年 11月5日(日)

報恩講

報恩講は浄土真宗を開かれたご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご生涯を偲びながら、お念仏の教えを聞かせていただき、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。

当日は本願寺派勧学の浅田 恵真和上からお話を聞かせていただき、お念仏のひと時を過ごさせていただきました。午前・午後の二回の法要にたくさんのお参りをいただきました。



浅田 恵真和上



元旦会

令和6年 1月1日(月)

今年4年ぶりにご門徒のみなさんと一緒に新年を迎えさせていただきました。住職・副住職の法話に始まり、最後はお参りのみなさんと一緒に、お正月の歌をうたいました。



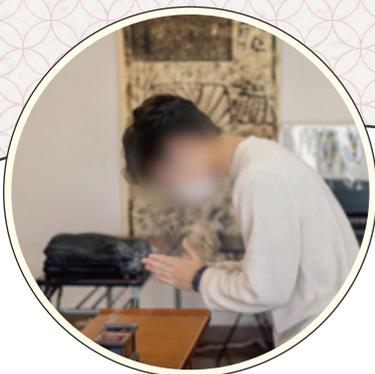
令和6年 3月16日(土)

春季彼岸会

お彼岸は「彼の岸（浄土）」へ往き生まれられた大切な方を偲びながら、今を生きる「私」自身が、仏法（仏さまの教え）を聞かせていただく大切な仏事です。坂上良師をお迎えし、ご法話を聞かせていただきました。



坂上 良師



灘中学校 社会実習体験

令和6年 3月26日(火)～27日(水)

灘中学校（神戸市）から中学2年生の生徒さん二人が、春休みの社会実習体験で善教寺に来てくれました。仏参（お参り）やお聴聞、住職が園長を勤めているパドマ・ナーサリースクールの見学や写経体験、地域のご門徒との交流会など、盛りだくさんの二日間を過ごしていただきました。今回の体験が春休みの良き体験になっていれぱうれしいです。

令和6年 6月8日(土)

永代経法要

えい たい きょう ほう しょう

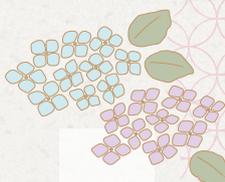
今年の永代経法要も、多くのお参りのみなさまとお勤めすることができました。永代経のご懇志を「進納くださいました」ご門徒にもお焼香を賜り、仏さまにお参りいただきお念仏のひと時を、共に過ごさせていただきました。花岡尚樹師のご法話をお聴聞させていただきました。



花岡 尚樹師



みなさんに法要の準備のお手伝いをいただきました。ありがとうございました。



浄土真宗 Q & A

お寺で七五三を行えるのですか？

浄土真宗では、七歳・五歳・三歳を迎えるお子さんを対象に参拜式を実施しているお寺もあります。仏前でのお勤めや仏さまのお話があるほか、写真撮影や記念品などが用意されています。お子さんがこれまで無事に育つたことをよるこび、ご家族やご縁のある方とそろってお参りしてお祝いしましょう。

ところで、神社で七五三が行われるようになったのは明治の中頃で、それほど古いものではありません。七五三を神事と考えている方もおられるでしょうが、必ずしも神社で行わなければならない理由はないのです。

七五三は、古くから公家や武家が行っていた儀式である三歳の「髪置」、かみおき五歳の「袴着」、はかまぎ七歳の「帯解」、おびときに由来するといわれています。髪置は髪を伸ばし始め、袴着は男児が初めて袴を着け、帯解は女児が大人の帯を締め始める儀式です。

このような風習は、子どもの死亡率が高かった時代に、七五三の年齢まで無事に育てることが難しかったことと関わりがあると考えられます。昔も今もわが子の成長をよるこびない親はいません。人生の節目をお寺で迎え、「ほのけの子」として生きていくことは大変尊いことであります。

前田 壽雄著 『仏事Q & A 浄土真宗本願寺派』(国書刊行会) 40～41頁引用



善教寺パドマ合唱団



コーラス
団員募集中

毎月2回・木曜日の13時からコーラスの練習をしています。どなた様も入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので心の健康にも良いですよ♪

(詳しい日程に関しては直接、善教寺までお問い合わせください)



コーラスの指導をしてくださっている東塾 裕子先生

令和5年
12月24日
(日)

善教寺パドマ合唱団 忘年会

コロナ以降、中断していました合唱団のみなさんとの忘年会を久しぶりに開催しました。ビンゴゲームや食事をして楽しく過ごしました。今年も一年、本当にお疲れさまでした♪



令和6年
3月1日
(金)

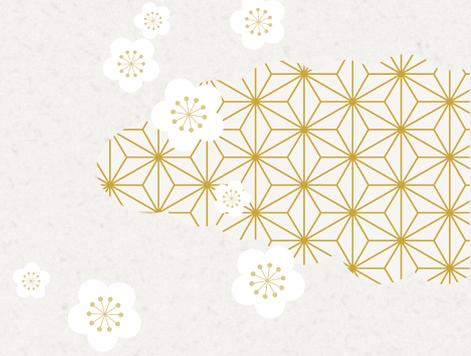
神戸別院コーラスフェスティバル

神戸別院で行なわれたコーラスフェスティバルに、善教寺パドマ合唱団が出演しました♪



善教寺仏教壮年会
婦人会のご案内

善教寺仏教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。ご連絡をお持ちしています。仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、お寺でのひと時を過ごされませんか？



善教寺 納骨堂・合同墓のご案内

ご門徒のみならず、ご要望をいただき、長い年月がかりましたが善教寺「光の納骨堂」ならびに合同墓「追憶廟」が完成しました。

「光の納骨堂」の設計・監修は、世界的にも著名な建築家であり、安藤忠雄氏によるものです。本当にモダンで美しい納骨堂に仕上げてくださいました。納骨堂の中央にご安置しています阿弥陀如来像は、平安佛所・仏師の江里康慧氏と京都・陶額堂によって造仏された、世界でもめずらしいひかり輝くガラス仏をお迎えしています。また各納骨壇には、ご本山である西本願寺からお迎えしたご本尊を安置しています。

「光の納骨堂」は、完全屋内型・全面バリアフリーで、どなたでも安心してお参りいただけます。ぜひこの場所で、大切な方に掌を合わせていただき、心温まるひと時をお過ごしくださいませ。なお納骨堂・合同墓に関する申し込みやパンフレットの請求、何かご質問等ございましたら、善教寺までお問い合わせください。



お寺の ホームページ

お寺からのお知らせや、今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ (www.zenkyoji.jp) でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。

お寺の風景



(左) 親鸞聖人・旅立ちの像 (右) いろづくイチョウ



※「新発意」は「しんぱつち」や「しんぱち」と読みますが、「元は発心して僧になったばかりの人や、仏門に入ってから間もない人を意味していました。それが転じて、お寺の子どもをさす言葉としても使われています。

副住職夫妻の長男・尊顕^{たかあき}は10歳。今年の4月から小学4年生になりました。次男・顕至^{けんし}は6歳になり、幼稚園の年長組に進級しました。

長男はスイミングスクールと野球のクラブチームに入っていますが、いまは野球に熱を上げ、日々、素振りやキャッチボールをして練習にはげんでいます。次男も今年の三月に兄と同じスイミングスクールに入り、うまく泳げるように頑張つて通つていきます。

お寺で法要がつとまる時には、子ども用のお念数と式章をつけて、兄弟そろつてお参りしてくれています。子どもの成長していく姿に、親の私たちもうれしさを感じています。みなさんには今後ともお育てくださいますよう、宜しくお願いいたします。



聖典勉強会



副住職が『歎異抄』の内容を、初めからゆつくり読み進めています。現在、日本でもっともよく読まれている宗教書は、仏教では『歎異抄』、キリスト教では『聖書』といわれている様に、『歎異抄』は古今を問わず、多くの方々に読み継がれてきた、浄土真宗の大切な聖典です。

「どんな内容かな？」と、少しでもご興味やご関心をお持ちの方は、この機会にぜひお越しください。日程に関しては善教寺のホームページをご覧ください。か、直接お問い合わせください。

西宮たねまき寺子屋



たねまき寺子屋は、歴史を動かした人、世界を変えた人など、目標にたくなる大人の生き方を子どもたちに学んでもらい、これからの未来をつくる子どもたちに「あんな大人になりたい」という憧れを育てる無料塾です。
(寺子屋の講師は地域の大人が、毎月リレーで担当しています)
毎月第4土曜日・16時〜17時、善教寺会館にて開催していますので、お子様やお孫様とご一緒にお越しくださいばうれしく思います。

NHK文化センター講座

NHK文化センター（神戸教室）『歎異抄』に聞く～親鸞聖人の歩まれた道～の講座に、副住職が毎月・第4金曜日に出講しています。

<http://www.nhk-cul.co.jp/school/kobe/>

広島仏教学院 オンライン入門講座



広島仏教学院の「仏教・真宗 オンライン入門講座」に副住職が出講しています。今年度は「正信偈」の講座を担当しています。

<https://www.gakuryo.jp/>

自照社コラム

今年の5月から仏教書の出版社である自照社さまのホームページにて、副住職のコラム「この道をゆけば」の連載がはじまりました。奇数月の1日に更新予定ですので、有縁のみなさまにお読みいただけたら幸いです。



<https://jishosha.shop-pro.jp/>